

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル22F Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

No.sfa0001 (2015.4.1)

第46回（2014年度）サントリー音楽賞は 広上淳一と京都市交響楽団 に決定



©Greg Sailor



公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第46回（2014年度）受賞者を広上淳一（ひろかみ じゅんいち）と京都市交響楽団に決定しました。

●選考経過

1. 2015年1月12日（月・祝）東京・丸の内の東京會館において、選考委員7名により第一次選考を行い、候補者を選定した。
2. 引き続き3月7日（土）東京・赤坂のアークヒルズ・クラブにおいて最終選考会を開催、選考委員7名により慎重な審議の結果、第46回（2014年度）サントリー音楽賞受賞者に広上淳一と京都市交響楽団が選定され、3月31日（火）理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円

●贈賞理由は別紙のとおり

●選考委員は下記の7氏

岡田暁生・柿沼敏江・片山杜秀・白石美雪・長木誠司
沼野雄司・三宅幸夫

(敬称略・50音順)

<贈賞理由>

広上淳一が常任指揮者に就任してからの京都市交響楽団は驚異的な能力の向上を遂げ、今や日本で屈指のオーケストラになったといっても過言ではない。定期演奏会が十回以上連続で売り切れを記録したことも、その何よりの証といえる。また同楽団は広上が指揮をしない公演においても、極めて高い水準の演奏を確実に行う能力をもっている。(例えば2014年2月の秋山和慶指揮定期演奏会における『春の祭典』や3月の沼尻竜典指揮のびわ湖オペラにおけるコルンゴルト『死の都』) 特筆すべきは、単なる個々のプレーヤーの技術的な上手さを超えて、一つのアンサンブルになったときの独自の「サウンド」の深みの感覚がある点である。また独奏パートだけでなく、それを支える和弦や内声や副声部の一見したところ目立たないシンプルなフレーズが、ことごとく完璧に調和して「決まる」ことにも瞠目される。これらは今日なお日本のオーケストラではなかなか得難い資質である。昨今の演奏は「あたり」ぞろいであるが、わけても3月14日の第577回定期演奏会(ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第二番、マーラー：交響曲第1番、アンコールにリヒャルト・シュトラウス『カプリッチョ』より「月光の音楽」)はNHKでも放映され、また東京でも同じ演目で公演が行われ、楽団の能力の高さを広く知らしめた。また5月24日の第579回定期演奏会(ベルリオーズ『ローマの謝肉祭』、プーランク『牝鹿』、ベルリオーズ『イタリアのハロルド』)で目も眩む極彩色の管弦楽を堪能させてくれた。以上の理由により2014年度音楽賞を広上淳一と京都市交響楽団に贈賞する。

<略 歴>

広上淳一（ひろかみ・じゅんいち）指揮

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。1991～95年ノールショピング響首席指揮者、91～00年日本フィル正指揮者、97～2001年ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者、98～00年リンブルク響首席指揮者、06～08年米国コロンバス響の音楽監督を歴任する傍らフランス国立管、ベルリン放送響、ウィーン響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、サンクトペテルブルク・フィルなどに定期的に客演。またオペラの分野でも、シドニー歌劇場におけるヴェルディ《仮面舞踏会》や《リゴレット》が高く評価されたのをはじめ、国内でも新国立劇場、日生劇場等で数々のプロダクションを成功に導いている。東京音楽大学指揮科教授、京都市芸術大学客員教授として後進の指導にも情熱を注いでいる。現在、京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー。

京都市交響楽団

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、2007年「第25回京都府文化賞特別功労賞」「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月、第12代常任指揮者に広上淳一が就任。14年4月からは常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。録音では、10～13年に広上淳一指揮による定期演奏会ライブ録音CD「名曲ライブシリーズ」を3枚リリース。15年6月には18年ぶりのヨーロッパ公演開催が決定し、16年の創立60周年という節目に向けて、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進を図っている。

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上